

参 考 资 料

(1) 人口及び就業構造

① 年齢層別人口動態

	年次	総計			0歳～14歳			15歳～29歳			30歳～44歳			45歳～64歳			65歳以上			不詳
		計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	
実数 (人)	平成12年	38,881	18,548	20,333	5,380	2,766	2,614	5,708	2,885	2,823	5,757	2,904	2,853	11,075	5,365	5,710	10,956	4,624	6,332	5
	平成17年	37,755	18,031	19,724	4,918	2,550	2,368	4,730	2,425	2,305	6,078	3,078	3,000	10,422	5,124	5,298	11,492	4,762	6,730	115
	平成22年	35,836	17,036	18,800	4,495	2,339	2,156	3,914	1,991	1,923	6,032	3,058	2,974	9,450	4,649	4,801	11,884	4,953	6,931	61
	平成27年	33,821	16,197	17,624	3,910	2,029	1,881	3,596	1,923	1,673	5,513	2,809	2,704	8,240	4,097	4,143	12,448	5,270	7,178	114
構成比 (%)	平成12年	100	47.70	52.30	100.00	51.41	48.59	100.00	50.54	49.46	100.00	50.44	49.56	100.00	48.44	51.56	100.00	42.20	57.80	—
	平成17年	100	47.76	52.24	100.00	51.85	48.15	100.00	51.27	48.73	100.00	50.64	49.36	100.00	49.17	50.83	100.00	41.44	58.56	—
	平成22年	100	47.54	52.46	100.00	52.04	47.96	100.00	50.87	49.13	100.00	50.70	49.30	100.00	49.20	50.80	100.00	41.68	58.32	—
	平成27年	100	47.89	52.11	100.00	51.89	48.11	100.00	53.48	46.52	100.00	50.95	49.05	100.00	49.72	50.28	100.00	42.34	57.66	—

資料：国勢調査各年10月1日現在

② 産業部門別就業者数等

	年次	総数	第1次産業				第2次産業		第3次産業	備考
			農業	林業	漁業	小計	うち木材・木製品製造業			
実数 (人)	平成12年	19,133	2,554	57	7	2,618	7,605	616	8,910	
	平成17年	18,858	2,298	17	4	2,319	6,516	416	10,023	
	平成22年	16,223	1,413	48	2	1,463	5,212	14	9,548	
	平成27年	15,981	1,322	35	4	1,361	5,098	29	9,522	
構成比 (%)	平成12年	100.00	13.35	0.30	0.03	13.68	39.75	3.22	46.57	
	平成17年	100.00	12.19	0.09	0.02	12.30	34.55	2.21	53.15	
	平成22年	100.00	8.71	0.30	0.00	9.01	32.13	0.01	58.85	
	平成27年	100.00	8.27	0.22	0.03	8.52	31.90	0.18	59.58	

資料①：あやべ統計書各年版

資料②：2015農林業センサス

(2) 土地利用

(単位:ha)

	年次	総土地面積	耕地面積								林野面積	その他	備考
			計	田	畑	樹園地							
						果樹園	茶園	桑園	その他				
実数	平成12年	34,711	2,122	1,847	190	85	44	28	7	6	26,626	5,878	
	平成17年	34,711	1,653	1,492	110	51	-	-	-	-	26,615	6,443	
	平成22年	34,711	1,525	1,358	109	58	-	-	-	-	26,587	6,599	
	平成27年	34,710	1,608	1,447	106	55	-	-	-	-	26,615	6,487	
構成比(%)	平成27年	100.00	4.63	4.17	0.30	0.16	-	-	-	-	76.68	18.69	

※総土地面積については平成26年10月1日を基準として測定の修正があった(統計書あやべ)

資料: ①農林業センサス各年10月1日現在

②あやべ統計書各年版(総面積)

(3) 森林転用面積

(単位:ha)

年次	総数	住宅敷地	その他の建物敷地	ゴルフ場・レジャー用地	公共用地	その他	備考
平成29年	—	—	—	—	—	—	
平成30年	3.68	—	0.48	—	3.20	—	
令和元年	1.68	0.54	—	—	—	1.14	

資料: 京都府林業統計(令和2年版)

(4) 森林資源の現況等

① 保有者形態別森林面積

(単位:ha)

保有形態	総面積		総面積			人工比率 (%) (B/A)	備考
	面積 (A)	比率 (%)	計	人工林 (B)	天然林		
総数	26,565.79	100.00	26,559.59	12,095.24	14,464.35	45.53	
国有林	414.79	1.56	414.79	253.41	161.38	61.09	
公有林	計	2,248.87	8.47	2,248.87	1,774.44	78.90	
	府有林	1,859.33	7.00	1,859.33	1,519.70	81.73	
	市有林	203.52	0.77	203.52	143.62	70.57	
	財産区有林	186.02	0.70	186.02	111.12	59.74	
私有林	23,902.13	89.97	23,895.93	10,067.39	13,828.54	42.12	

資料: 京都府林業統計(令和2年版)

② 在者・不在者別私有林面積

	年次	私有林合計	在者面積	不在者面積		
				計	府内	府外
実数	平成2年	24,261	23,581	680	278	402
	平成12年	24,342	22,927	1,415	637	778
	平成17年	23,193	19,087	4,106	3,572	534
構成比	平成2年	100	97.20	2.80	40.88	59.12
	平成12年	100	94.19	5.81	45.02	54.98
	平成17年	100	82.30	17.70	86.99	13.01

※平成17年度以後の調査無

資料: 世界農林業センサス

③ 民有林の齢級別面積

単位:ha

	総数	1・2齢級	3・4齢級	5・6齢級	7・8齢級	9・10齢級	11齢級以上
民有林計	26,144.80	14.09	89.34	509.12	1,107.24	2,307.67	21,424.92
人工林	11,841.83	14.09	80.79	437.37	1,082.37	2,022.21	8,205.00
天然林	13,610.55	0.00	8.55	71.75	24.87	285.46	13,219.92
(備考)	スギ 24.42%	ヒノキ 18.47%	マツ 11.57%	その他 45.54%	計100.00%		

資料: 京都府林業統計(令和2年版)

④ 保有山林面積規模別経営体数

面積規模	林家数(戸)	割合(%)	面積規模	林家数(戸)	割合(%)
～3ha	4	5.4	20～30	3	4.1
3～5	22	29.7	30～50	8	10.8
5～10	16	21.6	50～100	8	10.8
10～20	8	10.8	100ha以上	5	6.8
			総数	74	

資料：2015農林業センサス

⑤ 作業路網の状況
ア 基幹路網の現況

区 分	路線数	延 長	林道にかかる 利用区域面積	林道密度	備 考
基幹路網	194	170,978 m	13672.89 ha	12.5 m/ha	うち併用林道2路線8,132m
林業専用道	-	-	-	-	

資料：林道台帳 令和2年4月1日現在

イ 細部路網の現況

区 分	路線数	延 長	備考
森林作業道	300	174.6 km	

資料：令和2年実施作業道等現況調査(京都府)

(5) 計画の期間内において間伐を実施する必要があると認められる森林の所在

綾部市特定間伐等促進計画に記載された間伐を実施する森林の所在場所とする。

(8) 林業機械等設置状況

区分	総数	公有林	森 林 組 合	会社	個人	その他	備考
集材機	9			5	4		
モノケーブル							ジグザグ集材施設
リモコンウインチ	3			2	1		無線操縦による木寄機
自走式搬器	1			1			リモコン操作による 巻き上げ搬器
運材車	3		2		1		林内作業車
動力枝打機	20			1	19		自動木登式
トラック	5		1		4		
グラップル	2			2			
計	43		3	11	29		
(高性能機械)							
フェラーパンチャ							伐倒、木揃用の自走式
スキッド							牽引式集材車両
プロセッサ グラップルソー	1		1				枝払、玉切 集積用自走機
ハーベスター	1		1				伐倒、枝払、玉切 集積用自走機
フォワーダ	1		1				積載式集材車両
タワーヤーダ							タワー付き集材機

資料：令和元年京都市中丹広域振興局

(9) 林産物の生産概況

	素材 (チップ含む)	苗木	タケノコ	マツタケ	生シイタケ	乾燥シイタケ	クリ	シメジ	その他菌茸類
生産量	m ³ 10,272	千本 -	kg -	kg 31	kg -	kg -	kg 12,041	kg -	kg -
生産額	千円 -	千円 -	千円 -	千円 1,511	千円 -	千円 -	千円 13,075	千円 -	千円 -

資料: ①素材生産業者実態調べ(京都府中丹広域振興局)

②京都府林業統計(令和2年版)

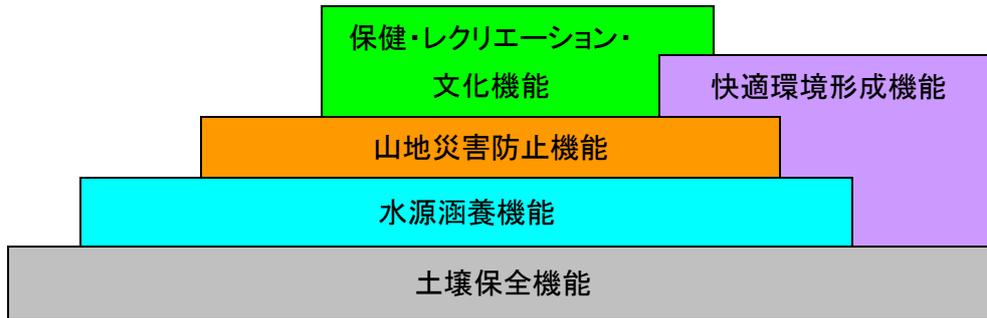
(10) 区域の設定の考え方

本文第4 公益的機能別施業森林等の整備に関する事項における各森林の公益的機能と区域の設定（ゾーニング）の進め方について記しておきます。

森林のそれぞれがもつ高度機能の決定は、森林簿データを用いて小班単位で各公益的機能の総合評価により判断することを基本としました。決定された各森林の高度機能は、同じ森林で複数存在します。そこで、次の図-1により階層の上に立つものは下の階層の機能の高度発揮を同時に期待できることから、上層の機能でゾーニングを決定することとしました。図-1では、各機能の水平方向への伸びは森林の面的広がりを表現しています。より下層の機能により決定されたゾーニングほど、林班等による区域の面的確保を考慮することとしました。

また、このゾーニング結果は、本文Iの2の(1) 地域の目指すべき森林資源の姿との適合を確認しています。

図-1



上記階層図における公益的機能の種類と森林簿データから判断された高度機能の種類、決定されたゾーニングの種類の関係は、次の表-1に示しました。

表-1

階層図における機能の種類	森林簿による高度機能の種類	決定したゾーニングの種類
保健・レクリエーション・文化	— 保健文化	→ 保健・レクリエーション機能維持増進森林 または文化・生物多様性機能維持増進森林 (総じて、保健・文化機能維持増進森林)
快適環境形成	— 生活環境保全	→ 快適環境形成機能維持増進森林
山地災害防止	— 山地災害防止(小流域、局地的)	→ 山地災害防止機能等維持増進森林
水源涵養	— 水源涵養(洪水防止、水資源確保)	→ 水源涵養機能維持増進森林
土壌保全	— 山地災害防止(大流域、基盤的)	→ 山地災害防止機能等維持増進森林

なお、文化機能と同時に求める生物多様性保全機能は、希少種・貴重種の保護などに限定されるもので、学術性の高い森林の保全を求めるものとの考えです。

生物多様性保全機能は本来、林分の多様性と異なる森林の種類のもザイク配置によって高度発揮が期待できるものとされています。さらに、天然生林の面的広がり確保とそれを補うある目的をもった森林のつながり（回廊）を設ける考え方も重要となります。

(11) 公益的機能別施業森林における目標林型への誘導と効果

本文中の公益的機能別施業森林の区分(ゾーニングの種類)の別に、推進する施業の方向(目標林型への誘導)と施業種、施業の効果等の関係を次の表に示しておきます。

ゾーニングの種類	現況林型 から 目標林型へ	施業種	施業効果・ねらい
①水源涵養機能維持増進森林	育成単層林  育成単層林 育成複層林  育成複層林 天然生林  天然生林	長伐期施業(皆伐20ha)	伐期の間隔の拡大 裸地の縮小及び分散
②山地災害防止機能等維持増進森林	育成単層林  育成単層林 育成複層林  育成複層林 天然生林  天然生林	長伐期施業(皆伐10ha)	裸地化の縮小及び分散
③快適環境形成機能維持増進森林	育成単層林  育成単層林 育成複層林  育成複層林 天然生林  天然生林	長伐期施業(皆伐10ha) 複層林施業(択伐以外)	裸地化の縮小 裸地化の回避 多様性の維持増進
④保健・レクリエーション機能維持増進森林 (保健・文化機能維持増進森林)	育成単層林  育成単層林 育成複層林  育成複層林 天然生林  天然生林	長伐期施業(皆伐10ha) 複層林施業(択伐以外) (複層林・択伐、 植生の復元)	裸地化の縮小 裸地化の回避 多様性の維持増進 (学術性の高い森林の保護保全)
⑤文化・生物多様性保全機能維持増進森林	育成単層林  育成単層林 育成複層林  育成複層林 天然生林  天然生林	複層林施業(択伐) 植生の復元	多様性の維持増進 学術性の高い森林の保護保全

表中の欄「現況林型から目標林型へ」においては、左から右に向かって推進方向を示しています。二重線は基本的な方向を、一本線はより高い機能を求める場合の方向を、点線は特に必要な場合の方向を表しています。